

標 題 : Adherence to a Mediterranean diet and risk of gastric adenocarcinoma within the European Prospective Investigation into Cancer and Nutrition (EPIC) cohort study

「がんと栄養に関するヨーロッパ追跡調査(EPIC)」コホート研究内部での地中海食事の順守と胃腺がんのリスク

著 者 : G. Buckland, et al. (スペイン カタロニア腫瘍学研究所  
がん疫学研究計画 栄養・環境・がん部門)

掲 載 誌 : Am. J. Clin. Nutr. 2010 Feb; 91(2): 381-90

要 旨 :

背 景 : 地中海食事パターンはがんを予防すると信じられているが、特定のがん部位を検証したコホート研究からの証拠は限定される。

目 的 : 相対的地中海食事の順守と胃腺がんの発症率との間の関連を「がんと栄養に関するヨーロッパ追跡調査」研究内部で検討することを、我々は目的とした。

計 画 : 研究は、ヨーロッパ10カ国から35-70歳の被験者485,044人(男性144,577人)を収録した。

募集時に、食事および生活様式の情報を集めた。

地中海食事の9個の重要成分を含む18点の相対的地中海食事スコアを使用して、相対的地中海食事の順守を算定した。

相対的地中海食事と胃腺がんの発症率との関連を、解剖学的部位(噴門と非噴門)および組織型(びまん型と腸型)に関して調査した。

サブサンプルにおける校正研究を使用して、食事測定の誤差を調整した。

結 果 : 平均8.9年の追跡後に、449件の胃腺がんの有効な発症が確認されて解析に使用された。

施設と年齢による階層化および広く認識されたがんの危険因子による調整後に、高い相対的地中海食事の順守は低い順守と比較して、胃腺がんリスクの有意な低下と関連した(ハザード比: 0.67; 95%CI: 0.47-0.94)。

相対的地中海食事スコアの1点上昇は胃腺がんリスク5%低下(95%CI: 0.91-0.99)と関連した。

異なる解剖学的部位または組織型の間における異質性の証拠はなかった。

校正した結果は同様な傾向を示した(胃腺がんの全体的なハザード比: 0.93; 95%CI: 0.89-0.99)。

結 論 : 相対的地中海食事の高い順守は、胃腺がん発症リスクの有意な低下と関連する。